

### ワゴン一つ、店の外へ

あきんど倶楽部第7代会長  
原田 隆幸氏



昨年6月、長年にわたって私たちをけん引してくださった船山隆幸氏(大手門すずらん商店街振興組合理事長)の後を受けて、「あきんど倶楽部」第7代会長を仰せつかりました。私を含めて14人の若い仲間と、山形市内商店街のにぎわいを創出しようと奮闘しています。

あきんど倶楽部の前身は、昭和55年8月、市内商店街の若手経営者有志が、個々の商店街の枠を超えて「何か面白いこと企画しよう」「街なかに人を呼び込もう」と設立した山形商工会議所商店街振興青年連絡協議会(商青連)です。当時隣接する天童市、寒河江市、東根市それぞれに商業集積が進み、翌年には笹谷トンネル開通が予定されており、このまま座して待っているのは市内商店街が厳しい状況にさらされるという危機感がありました。商青連には松倉公一氏(初代会長)、藤田宏次氏、多田一夫氏、岩淵正太郎氏、蜂屋恵弘氏、阿部眞栄氏らとともに、大沼山形店(現会員)、山形松坂屋、十字屋山形店といった大型店もメンバーとなっていました。まさに「大小を問わず」商店街の盛り上がりに向けて結束したわけです。平成10年に現在の名称に変更しました。

商青連設立には父雅雄も参加しています。私の

店は昭和9年、祖父隆義が愛知県豊橋市から移り住み、アズ七日町ビルとなっている一角で遠藤書店、ポーシ奥山さんと並び、「原田セトヤ」の屋号で瀬戸物を扱ったのが始まりです。昭和33年有限会社に組織替え、日興証券の跡地に移転し現在に至っています。

3代目となる私は、「いずれは店を継ぐ」との気持ちはあったものの、その前に外の世界を見てみようとして高校卒業後、市内のホテルに半年間お世話になったのち家出同然で上京、新宿小田急百貨店にあった喫茶店でアルバイトをしました。元々、ファッションに興味があったので、それなりに東京生活は楽しいものでしたが、バブルが終わりかけたこともあって帰郷。いったんレストランで働き、それから掃除用商品を提供する会社で飛び込み営業を経験しました。

現在、本町の店舗は両親に任せて、地元山形をはじめとする村山地域、米沢、鶴岡、宮城県をエリアに日々外商に出歩き、業務用の食器、調理設備といった厨房機器全般を販売しています。顧客(エンドユーザー)が何を求めているか、使い心地はどうか、不備な点はないか、店(施設)に合った配置はどうかなど、個々に提案し対話しなければ実績には結び付きません。

18歳の時からの外での経験がむだではありませんでした。ことに飛び込み営業は貴重な経験になっています。もちろん自分の力だけで食堂や介護施設といった得意先を得たわけではありません。外に出ることで築くことができた建築関係はじめ異業種の方々とのネットワークを大切に、情報を交換するなど「ウイン・ウインの関係」を心掛けています。

あきんど倶楽部が主催する5月5日のスプリングフェスティバル「働くくるま大集合」は12万人を超える家族連れで大人気です。1日だけの開催としては県内ナンバーワンでしょう。先輩方の発想の素晴らしさと、継続へのエネルギーに頭が下がります。

8月4日には花笠サマーフェスティバルが開催されます。にぎわいもさることながら、大いに店の売り上げを伸ばしてほしい。その昔、本町商店街の駐車場で「夏の初市にしたい」と倶楽部が始めたビッグイベントです。ワゴン一つでいいから商品を店の外に出しましょう。あきんど倶楽部からの願いです。

(有限会社原田陶器店)